

福井県武生市下中津原町方言の否定の表現

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/7134

福井県武生市下中津原町方言の否定の表現

加藤 和夫

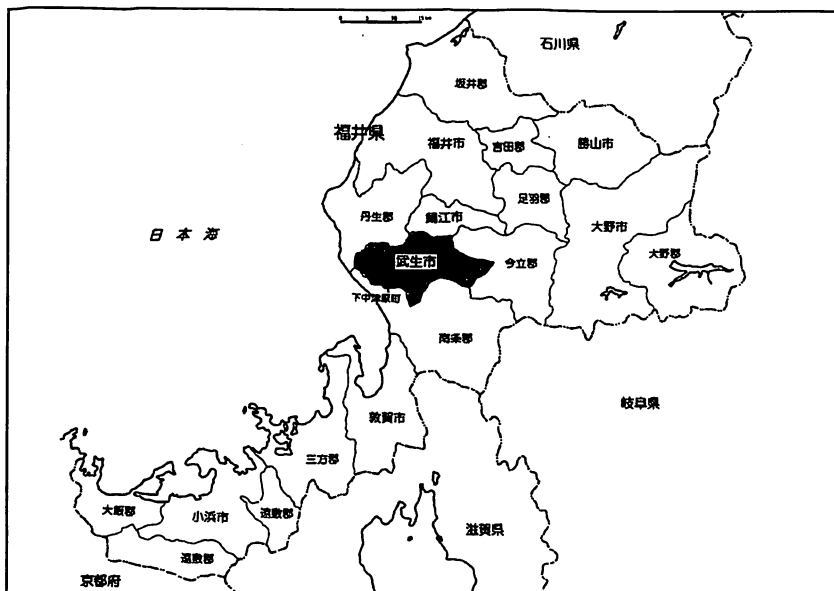
キーワード：福井県武生市方言、記述的研究、否定の表現

I. はじめに

本稿は福井県武生市^{たけふし}下中津原町^{しもなかつはら}高年層方言の「否定の表現」（否認・否定・打消・禁止等に関わる諸形式）を広く取り上げ記述したものである。本稿は当初、方言研究ゼミナール編(1995)『方言資料叢刊 第5巻 日本語方言の否定の表現』に寄稿を予定していたが諸般の事情で実現しなかったものである。しかし、福井県内の方言に関するこの種の記述的研究が、ここで取り上げる「否定の表現」に限らずまだまだ不足している状況から、このまま埋もれさせずに活字化しておくべきと考えた。園家先生の退官を記念する本誌でその機会が与えられたことを感謝したい。

1. 調査対象地： 福井県武生市は、県庁所在地の福江市から25 kmほど南に位置する。人口は約7万人（1996年12月1日現在 70,709人）。かつては府中と呼ばれ越前国の国府が置かれた町であり、今も福江市に次いで福井県内人口第二位の市として丹南^{たんなん}地域の中心的役割を担っている。調査対象地の同市下中津原町は市の中心部からさらに南西に10数キロ離れた山間の集落であり、主な産業は農林業。ほとんどが兼業農家である。かつての南条郡坂口村に属し、昭和26年に武生市に編入された。市内有数の積雪地帯でもあるため、徐々に過疎化が進みつつあり、1960年代には34戸あった戸数も1996年には28戸となっている。ちなみに当該集落は筆者の出身地（0～18歳在住）であり、筆者が文字化・共通語訳に協力した国立国語研究所編(1980・83・87)『方言談話資料(4)(7)(9)(10)』の福井県の調査地点でもある。→調査地点図参照
2. 調査年月日： 1995年8月26日 午後1時15分～3時50分
3. 話者： 加藤定治 1930（昭和5）年6月14日生（当時65歳）
4. 調査者・調査場所： 加藤和夫・話者宅
5. 調査方法：『方言資料叢刊 第5巻』編集のために用意された神部宏泰氏作成による「否定の表現」調査項目による面接質問調査。

調査地点図



II. 調査結果

以下の記述では、まずそれぞれの調査項目番号のあとに調査文例（共通語文例）を示し、中でも否定の表現に関して特に留意すべき部分に下線を付した。そして、それに対する方言による表現形（話者の回答）をその下に表音的片仮名表記（文節分かち書き）で示し、さらに必要に応じて方言による表現形の後に*を付して補足説明を加えた。

当該方言（高年層）ではセ・ゼにあたる音が [ʃe] [dʒe] に近く発音されるのでシェ・ジェと表記した。またガ行子音は非語頭で鼻濁音となるので語頭のカ・ギ・グ・ゲ・ゴと区別してカ°・キ°・ク°・ケ°・コ°のように表記した。

複数の表現が回答された場合は、回答表現の頭に①②のように番号を付し、それぞれの表現の間に/を入れた。また、調査文例のうち下線部のみに複数回答が得られた場合には、その部分を {①～.②～.} のような括弧付きで示した。複数の表現については、話者から情報が得られた範囲で使用頻度の<多><少>や<新><古>関係、待遇的な<卑><上品><下品>、位相的な<幼><老><男><女>などの説明を略記した。その他の注記は*を付して記した。なお、当該方言のアクセントは単語によって型の区別を有しない無型アクセントであるため、資料中にアクセントは記載しなかった。

<動作・作用の否定表現>

1. 雨が降りそうだから、今日はどこへも行かない。

アメカ° フリソーヤサケーー キョーワ ドコエモ イカントクワ。

*フリソーヤサケーーの末尾の「ー」はそこに北陸方言特有の揺れるイントネーション(間投イントネーション)が現れていることを示す。以下の項目でも「ー」の表記は同様の現象を表わしている。イカントクワのンは言うまでもなく共通語の「ない」に当たる否定の助動詞で「行かないでokよ」の意となる。このように、当該方言においては否定の「ない」に当たるものとしてンが用いられる。フラン(降らない)、イカン(行かない)、デン(出ない)、コン(来ない)、ミン(見ない)、イン(居ない)などのンがそれである。

2. 今日は、雨は降らないよ。

キョーワ アメワ フランワ。

3. 今日はどこへも行きません。

キョーワ ドコエモ ①イキマセンワノ。<新> ②イカントケンワノ。<少>

*①ノイキマセンワノの末尾ノのように、当該地域の高年層方言では文末助詞ノが多用される。②のンスは読メンス、書ケンスのように動詞の仮定形に下接して共通語の「ます」に当たる意味を表わす。従って②は「行かないでおきますよ」の意。

4. 今日はどこへも行きはしない。

キョーワ ドコエモ ①イカンワノ。②イカントクワノ。}

*①は「行かないよ」、②は「行かないでokよ」の意。

5. 先生は、今日、どこへもいらっしやらない。(～行かれない。)

シェンシェア キョーアー ドコエモ イキナハランワノ。

*イキナハランワノのナハラは尊敬の助動詞ナハルの否定形。

6. 今日はどこへも行かなかった。

キョーア ドコエモ イカナンダー。

*イカナンダーのナンダは共通語の「～なかった」に当たる否定の過去表現形。

7. 今日はどこへも行きはしなかった。

キョーア ドコエモ イカナンダンジャ。

*イカナンダンジャは「行かなかったんだ」の意。

8. 雨が降りそうだから、今日はどこへも行くまい。

アメカ° フリソーヤデーー キョーワ ドコエモ イカンワノ。

- *当該方言では理由の接続助詞には1に見られるサケと並んでデもよく用いられる。
9. 雨が降りそうだから、今日はどこへも出まい。
アメァ フツテキソーナデーー キョーワ ドコエモ デントクワノ。
*デントクワノは「出ないでよくよ」の意。
10. 今日は何もすまい。
キョーワ ナーモ ①シェンワノ。②シェントクワノ。
*シェンは「しない」に当たるセンのセが当該方言の音声的特徴として [fe] と発音されているもの。シェントクワノは「しないでよくよ」の意。
11. 今日とはぶん雨は降らないだろう。
キョーワ オーカタ アメァ フランヤロー。
12. 明日はきっと雨が降るにちがいない。
アシタワ キット アメァ フルワノ。
*「～にちがいない」にあたる言い方はしない。フルワノは「降るよ」の意。
13. 今日には誰も来ない。
キョーア ダレモ コンワノ。
*コンワノは「来ないよ」の意。
14. 今日には誰も来はしない。
キョーア ダレモ ①コンワノ。②キタリシェンワノ。
*②は「来たりしないよ」の意。②の方が否定の意味合いが強い。
15. 今日には誰も来なかった。
キョーア ダレモ コナダワノ。
16. 今日には誰も見ない。(～見かけない。)
キョーア ダレモ ①ミン。②ミンワノ。③ミエンワノ。
*③は「見えないよ」の意。
17. 今日には誰も居ない。
キョーア ダレモ ①イン。②インワノ。＜多＞ ③エンワノ。＜新＞
*「居ない」にあたる言い方は当該方言ではインが本来の言い方であるが、最近若い世代ではエンに変化している。
18. どこへも行かずに家にいる。
ドコエモ イカント ウチニ イルワノ。
*共通語の「～ないで」に当たるものとしてントが用いられる。勉強シエント (勉強しないで) 遊ンデバッカイル (遊んでばかりいる)。

19. わざわざ行かなくてもよい。

ワザワザ |①イカンデモ<多> ②イカイデモ<少>| イー。

*「～なくても」に当たるものとしてはデモが多用される。

20. わざわざ行かなければよかった。

ワザワザ イカントキャ ヨカツタ。

*イカントキャは「行かないでおけば」の意のイカントオケバから変化したもの。

21. どうしても行かねばならない。

ドーシテモ |①イカナアカンノヤ。②イカナアカンワノ。③イカンナランノヤ。|

*①②のイカナアカンは「行かなくては駄目だ」の意。読マナアカン、見ナアカンのように動詞の否定形にナアカンの形で下接する。

22. こちらから行きもせず、向こうから来もしない。

①コッチカラモ イキモシェンサケヤケドー ムコーカラモ キモシェンワノ。/②コッチカラ イカンサケ ムコーカラモ コンワノ。/③コッチカラモ イカンサケヤドー ムコーカラモ コンワノ。

*②よりも③の方、③よりも①の方が強い言い方。

23. その人の家に、明日も行くか行かないかわからない。

ソコエワー アシタモ イクカ イカンカ ワカラン。

<存在・状態・判断の否定表現>

24. これだけしか無い。

コンダケシカ |①ネー。②ネンニヤー。③ネンジャー。④ネーワノー。
<多> ⑤ネーケ°ノー。|

*②③④⑤はいずれも相手に無いことを表明する意味合いで使う。②と③は意味的には「無いんだ」の意で③の方が本来の形。ネンニヤーはネンヤーからの変化形。ネーワノーは相手に無いことを説明するような場合、ネーケ°ノーは無いことが困ったことだといったニュアンスで相手に伝えるような場合の言い方。ネーはナイからの音変化形。

25. 今年のように暑い年は無いねえ。

コトシンテネー アーツイ トシア ネーノー。

*コトシンテネのンテネ(ンテナとも)は「～みたいな」に当たる方言形。ミタイナからの音変化形。

26. 今年のように暑い年は、ありはしない。

コトシンテネ アツイ トシア ネーノー。

*25の場合と特に区別した言い方はしない。

27. 今年のように暑い年は無かったねえ。
コトシンテネ アツイ トシア ナカッタノー。
28. 今年のように暑い年は、ありはしなかった。
コトシンテネ アツイ トシア ナカッタ。
29. 今年のように暑い年は、もう無いだろう。
コトシンテナ アツイ トシア モー {①ネーヤローー。②ネンデネン
カー}

*ネンデネンカーは「無いのではないか」の意。

30. 暑い夏なんか無ければいいのに。
コンネ アツイ ナツァ {①ネーツチュト インニヤニー。②ネート
インニヤニー。}
31. 今日はあまり暑くない。
①キョーア ワリニ アツネーノー。／②キョーア アンマリ アツネー
ノー。
*形容詞の否定表現はアツネーと同様、アコネー（赤くない）、ハヨネ
ー（早くない）、タコネー（高くない）、イコネー（大きくない）のよ
うに、当該方言における形容詞の連用形にネーが下接する。
32. 今日はあまり暑くはない。
①キョーア アンマリ アツワネーノー。／②キョーア ワリニ スズシ
ノー。
33. 今日はあまり暑くなかった。
①キョーア アンマリ アツナカッタノー。／②キョーア ホンネ アツ
ナカッターー。

*形容詞の否定の過去表現は当該方言における形容詞の連用形に共通語
と同様ナカッタが下接する。

34. 今日はあまり暑くはなかった。
①キョーワ アンマリ アツワナカッタノー。／②キョーア ホンネ ア
ツワナカッタノー。
35. 明日も暑くないだろう。
アシタモー ホンネ {①アツネンデネンカー。②アツネーヤロー。}
36. 今日はあまり涼しくないねえ。
①キョーア アンマリ スズシネーノー。／②キョーア ワリネ スズシ
ネーノー。
37. あまりにぎやかでない。

ホンネ ニキ°ヤカデネーノー。

*ナ形容詞（形容動詞）の否定表現はニキ°ヤカデネー同様、シズカデネー（静かでない）、ラクデネー（楽でない）のように語幹にデネーが下接する。

38. あまりにぎやかではない。

①ホンネ ニキ°ヤカデアネーノー。②ソンネ ニキ°ヤカデワネーノー。

39. あまりにぎやかでなかった。

ホンネ ニキ°ヤカデナカッタノー。

40. あまりにぎやかではなかった。

①アンマリ ニキ°ヤカデアナカッタノー。／②ワリネー サビシカッタワノー。

41. もう以前のようににぎやかではなからう。

モー マエンテネ ホンネ ニキ°ヤカデアナイヤロー。

42. あれは花ではない。

①アレア ハナデアネーケ°ノー。／②アレア ハナデアネーワノー。

<特定の慣用句による否定（不可・禁止）表現>

43. (そんなことでは) いくらやってもだめだ。 (不可)

ホンナモン イクラ ヤツテモ アカン。

*当該方言では、不可や禁止を表わす「だめだ」「いけない」に当たるものとしてアカンが多用される。

44. あいつはだめなやつだ。 (不可)

①アイツァ アカン ヤツチャ。／②アイツァ アカンワノ。

45. つまらないことを言うな。 (不可)

①イランコト ユーナ。／②イランコト ユワントケ。／③アホンテナコト ユーナ。

*①②のイランは「要らない」の意。③のアホンテナは「阿呆（馬鹿）みたいな」の意。

46. 行ってはいけない。 (禁止)

①ホンナトコ イッタラアカン。／②ホンナトコ イクコトナラン。

*「～はいけない」に当たる表現として、①は動詞連用（音便）形＋タラアカン、②は動詞連体形＋コトナランの形。

47. そんな所へは行くな。 (禁止)

ホンナトコ {①イカントケ。②イッタラアカンノヤゾ。③イクナヤ。④イクコトナランゾ。}

*イカントケはイカントオケ（行かないでおけ）からの変化形。①②③④の意味の差は微妙だが、①②③④の順で禁止の意味が強くなるようだ。

48. いたずらをするな。（禁止）

ヤンチャ シェンナ。

*禁止の終助詞ナは五段動詞には共通語と同様ユーナ（言うな）、イクナ（行くな）のように終止形に下接するが、ここでのシェンナやミンナ（見るな）、ネンナ（寝るな）、コンナ（来るな）のようにサ変、一段、カ変の各動詞には否定形に下接する。

49. そんな所へ行くもんでもない。

ホンナトコ {①イクモンデアネーゾ。②イットラアカン。}

50. 暑くてたまらない。

キョーア アツテ ドムナランノー。

*ドムナランは「どうにもならない」「仕方がない」の意のドーモナランからの変化形。

51. 雨がやむのを待っていてもしかたがない。

アメア ヤムノ マツテタカッテ ドムナランケ°ノ。

52. 遠くまで歩くのは楽ではない。

トーイトコマデ アルクノア {①ラクデネーノー。②エレノー。}

53. 遠くまで歩きたくない。

トーイトコマデ {①アルイテクノ イヤジャモ。②アルキトネーワノー。}<多>

*②アルキトネーワノーのトネーはカキトネー（書きたくない）、オキトネー（起きたくない）、デトネー（出たくない）、シトネー（したくない）、キトネー（来たくない）などのように動詞の連用形に下接して「～したくない」の意を表わす。

54. 心配しなくても大丈夫だ。

①シンパイシェンデモ イー。／②シンパイシテモラワンデモ イー。／③シンパイシテモラワンデモ ナントモネンジャ（ニヤ）ー。

*③のナントモネンジャー、ナントモネンニャーは「何ともないのだ」の意のナントモナインジャ、ナントモナインヤからの音変化形。

<否定の応答表現>

55. いや。 降らなかった。

イヤ ナーモ フラナンダ。

*イヤ ナーモのナーモは「何も」の意。以下55～57、59のナーモも同じ。

56. いや。(強い否定) 降らなかった。

イヤ トクニ ナーモ フラナンダ。

57. いいえ。降りませんでした。

イヤ ナーモ フラナンダンデス。

58. いや。(否定の問いかけに対する応答)

友達から電話で、「今日、そちらでは雨は降らなかったか。」と聞かれて。

(1)降った場合の応答

イヤ {①フッター。②フッタンニャー。}

(2)降らなかった場合の応答

オン {①フラナンダ。②フラナンダンニャー。}

*②フラナンダンニャーはフラナンダンニャーからの音変化形。

59. どういたしまして。

お客さんから、「今日はほんとうにご親切にお世話いただきまして。ありがとうございました。」というような挨拶をされての応答。

①イヤ ナーモ。／②イヤ ナーモ カマワンデー。／③イヤ ナーモ
オカマイ シマシエントー。＜上品＞／④イヤ ナーモ オカマイモ
シマシエンデー。＜上品＞

<不可能の表現>

60. 私はできない。

①ウラワ デキンワノ。／②ワタシワ トテモ ホンナコトア デキマシ
エンワノ。＜上品＞

61. (暗いので新聞を) 読むことができない。(状況)

①クロテ ヨメンケ°ノ。／②クロテ ヨメンワノ。／③クロテ ヨマレ
ンワノ。

*当該方言(高年層)の五段動詞の可能表現においては、ヨメル・ヨメンなどの可能動詞形とあわせてヨマレル・ヨマレンなどの形もよく残って用いられている。なお、肯定形(ヨマレルなど)よりは否定形(ヨマレンなど)でよく使用される傾向がある。

62. (まだ小学生だから新聞を) 読むことができない。(能力)

マダ コノコア コンナ ジア {①ヨマレンモ<多>。②ヨマレンワノ。
<多>。③ヨマレンシエンケ°ノ。＜上品＞ ④ヨメンノデス。＜上品>}

*③ヨマレンシエンケ°ノのンシエンケ°ノは、イカレンシエンケ°ノ、

(行けないんですよ)のように、ヨマレル(読める)・イカレル(行ける)などの動詞の可能形の否定形に下接して「～ないんですよ」といったやや丁寧な意を添える形。

63. こんな派手な服を着ては、街へ出られない。(心理的状況)

コンナ ハデナ フク キテァ マチエ {①デラレンワノ。②イカレンノー。}

*当該方言(高年層)のカ変動詞・一段動詞の可能表現においては、①デラレンワノのデラレン(出られない)、また64・65のタベラレン(食べられない)のように可能の助動詞を添えた形が用いられ、いわゆるデレル(出られる)・デレン(出られない)、タベレル(食べられる)・タベレン(食べられない)などの可能動詞形はまず聞かれない。

64. この草は食べられない。

コノ コケァ {①クエンノー。②タベラレンワノー。③タバタラアカンゾノ。}

*③は「食べてはいけなぞ(禁止)」の意。

65. 忙しくて昼飯も食べることができない。

イソカ[°]シテ ヒルメシモ {①タバラレンノヤー。②タバテラレンノヤー。③タバテラレンケ[°]ノー。}

*②③に共通するタバテラレンは「食べていられない」の意のタバテラレンからの変化形。

<反語・反発の強調表現>

66. そんなこと、おれが知るものか。

ンナコト ウラ {①シランケ[°]ノ。②シランワノ。③シランゾノ。④シツテルハズネーケ[°]ノ。⑤シルケノ。⑥シツテルケノ。}

*①②③は終助詞部分の意味の違いはあるもののシランが「知らない」に当たる表現であることから、調査文例の「知るものか」に当たる強い否定の意は④⑤⑥の方に含まれている。

67. そんな所へ誰が行くものか。

ホンナトコエァ {①ダレァ イクイヤ。②ダレァ イクイノ。③ダレァ イクイ。④イカンワ。}

*④のイカンワが「行かないよ」に近い意であるのに対し、①②③に共通するダレァ イクイは調査文例の「誰が行くものか」にほぼ当たる。この動詞終止形+イヤは、ここでのダレァ(誰か)や68で見られるナンデ(何で)などととも用いられて「～ものか」に近い意味を表わ

す。

68. そんな所へなんで行くか。(行くものか。)

ホンナトコエ {①ナンデ イクイヤ。②ジェットイ イカンワ。③イカンジャ。④イカンゾ。}

*②③④はほぼ「行かないよ・行かないぞ」の意。

69. なんで恥ずかしいものか。(なんで恥ずかしからうか。)

①ナンデ ハズカシンジャイ。/②ンナ ハズカシカ° ッテタラ アカンケ°。

*①は「どうして恥ずかしいんだ」、②は「そんなに恥ずかしがってては駄目だよ」の意。

70. 行かないでおるものか。(行くとも！)

①イククレヤ。/②イカントカンゾ。

*①は動詞の終止形にクレヤが下接した形で、動詞の表わす行為を絶対を実現する(実現できる)んだという話し手の気持ちを相手に伝える表現。②は「行かないではおかないぞ」の意。

71. それがお前にやれるか。

ホンナコト オメ {①デキルキヤ。②デキルケ。}

*①はデキルケヤからの変化形で、②が相手に出来るかどうかを確認するニュアンスが強いのに対し、①は始めから出来ないだろうと決めてかかるようなニュアンスがある。

72. そんなにいやなら、していらない。

ホンネ イヤナラ {①シテイラーン。②シェンデモイー。③シェンデモイーキ°ヤ。}

*①は「していらない」の意。②③は「しなくてもいい(よ)」の意。③はシェンデモイーカ°イヤからの変化形と考えられる。

<特定の副詞に関わる否定表現(付. 否定形式の見られる特定副詞) >

73. 暑くて仕事が少しもはかどらない。(少しも~ない)

アツテ シコ°トア {①チョットモ ハカイカンワ。②チョットモ ハカイカンケ°ノ。③チョットモ ススマンケ°ノ。}

*①②に含まれるハカイクは「物事が片付く」「はかどる」の意。

74. 仕事がぜんぜんできていない。(ぜんぜん~ない)

シコ°トア {①ジェンジェン デキテエンノヤナ。②ジェンジェン ハカイカンキ°ヤ。③サツパリ ハカイカンナ。④カイモク ハカイカンノヤナー。}

75. 雨がいっこうに降らない。(いっこうに～ない)
 アメア |①サツパリ フランワノ。②チットモ フラン。③チョットモ
 フラン。|
76. 今年も雨があまり降らない。(あまり～ない)
 コトシモ マータ アメア チットモ フラン。
77. 芋が(予想外に)たくさんとれた。
 ①オモータ タリネア ギョーサン トレタンジャワノ。 / ②オモイ
 カケン ヨーケ トレタワノ。 / ③オモイモヨラン ヨーケ トレタワ
 ノ。
 *①のギョーサン(仰山)はジョーサン<古>と発音する場合も。「数
 や量が多い」意でギョーサンもヨーケも、ともによく用いられる。

<その他否定形式に関わる諸表現>

78. わざわざ行かなくてもいいではないか。
 ワザワザ ホンナトコエ イカンデモ インデネンカ。
 *インデネンカはイーデンナインカからの変化形。
79. わざわざ行かなくてもいいのではないか。
 ワザワザ イカンデモ インデネンカ。
80. わざわざ行かなくてもいいかもしれない。
 ワザワザ イカンデモ インカモワカラーン。
 *インカモワカラ(-)はイーカモワカラン(いいのかもわからない)
 からの変化形。当該方言では推量の意を表わす共通語の「かもしれな
 い」に当たるものとしてカモワカラン(降ルカモワカラン)とカモシ
 ラン(降ルカモシラン)の二つの表現形がよく聞かれる。
81. いっしょに行かないか。(友達に)
 イッシヨニ |①イカンカ。②イカンケ。|
 *親しい友達や目下の相手には①よりも②の方を使う。つまり①よりも
 ②の方がぞんざいな感じとなる。この点、石川や富山の方言では～ケ
 よりも～カの方がぞんざいな感じとなり、福井方言とは逆の関係とな
 る。
82. これを持ってくれないか。(友達に)
 コレ |①モツテクレンケ。②モツテクレヤ。|
 *②は「持ってくれよ」の意。
83. これを持ってくれませんか。(少し丁寧)
 コレ |①モツトクレンカ。②モツトクンナハランケノ。③モツトクンナ

レンシエンケノ。}

*①はモットオクレンカからの変化形。②モットクンナハラケノのナハラは敬語（尊敬）助動詞「ナハル」の否定形（否定の「ン」に続く形）。③モットクンナレンシエンケノのナレンシエも敬語助動詞ナレンスの否定形。①②③の順に丁寧さが増す。

84. これを持って下さいませんか。（丁寧に）

コレ {①モットクンナハラカ。②モットクンナレンシエンカ。③モットクンナリマシエンカ。}

*上の83の②およびこの①～③に共通するモットクン～はモットオクレ～からの変化形。①のナハラは上と同じ敬語（尊敬）助動詞ナハルの否定形。②のナレンシエも同様に敬語助動詞ナレンスの否定形。ここでも①②③の順に丁寧さが増す。

85. 早く行かないと。（～行けば。）（勸奨）

ハヨ {①イカナアカンキ^ャ。②イカナアカンノヤ。③イカンケノ。④イケマ。⑤イキネーノ。}

*④は年下・目下の相手に使い①～③よりもぞんざいな言い方。⑤は逆に①～③よりも丁寧な言い方。①はイカナアカンガ^ィイヤから変化した形。①②の「～ナアカン」は「～なくては駄目だ」の意。また④のイケマのマは動詞の命令形に付いて命令の意味を強める終助詞で北陸三県の方言に共通に聞かれる。⑤イキネーノのネーは「～なさい」の意のナイから変化したもので、福井県嶺北地方からそれに続く石川県加賀地方の一部に分布する特徴的な形。動詞の連用形に接続する。

Ⅲ. おわりに

これらの調査結果に基づいて、当該方言（福井県武生市下中津原町方言）の否定の表現（否認・否定・打消・禁止等に関わる諸形式）の主な特徴をまとめておくと以下のようになる。

- (1)共通語の否定（打消）の助動詞「ない」に当たるものは、フラン（降らない）、イカン（行かない）、ミン（見ない）、イン（居ない）、デン（出ない）、コン（来ない）などのように「ン」である。
- (2)共通語の否定の過去表現「～なかった」に当たるものは、フランダ（降らなかった）、イカナダ（行かなかった）、ミナダ（見なかった）、イナダ（居なかった）、デナダ（出なかった）、コナダ（来なかった）などのように「ナダ」である。
- (3)共通語の「～ないで」に当たるものは、勉強シエント（勉強しないで）、イ

- カント（行かないで）、ミント（見ないで）、デント（出ないで）、コント（来ないで）などのように「ント」である。
- (4)共通語の「～なくてはいけない」に当たるものは、イカナアカン（行かなくてはいけない（駄目だ））、ヨマナアカン（読まなくてはいけない）、ミナアカン（見なくてはいけない）、ネナアカン（寝なくてはいけない）、コナアカン（来なくてはいけない）のように動詞の否定形（未然形）に下接して用いられる「ナアカン」である。
- (5)存在を否定する共通語の「ない」に当たるものは「ネー」（過去の「なかった」は当該方言も同じ「ナカッタ」）である。
- (6)形容詞の否定表現はアツネー（暑くない・熱くない）、アコネー（赤くない）、ハヨネー（早くない）、タコネー（高くない）、イコネー（大きくない）のように形容詞の連用形に「ネー」が下接する。
- (7)形容詞の否定の過去表現はアツナカッタ（暑くなかった・熱くなかった）のように形容詞の連用形に「ナカッタ」が下接する。
- (8)ナ形容詞（形容動詞）の否定表現はニキ・ヤカデネーと同様、シズカデネー（静かでない）、ラクデネー（楽でない）のように語幹にデネーが下接する。
- (9)不可・禁止を表わす「だめだ」「いけない」、「～では駄目だ・～ではいけない」に当たる否定表現は「アカン」「～タラアカン」である。
- (10)禁止の終助詞ナは五段動詞には共通語と同様、ユーナ（言うな）、イクナ（行くな）のように終止形に下接するが、シェンナ（するな）、ミンナ（見るな）、ネンナ（寝るな）、コンナ（来るな）のようにサ変、一段、カ変の各動詞には否定形に下接する。
- (11)共通語の「～したくない」に当たるものはアルキトネー（歩きたくない）、カキトネー（書きたくない）、オキトネー（起きたくない）、デトネー（出たくない）、シトネー（したくない）、キトネー（来たくない）などのように動詞の連用形に「トネー」が下接する。
- (12)不可能の表現は、五段動詞においてはヨメンなどの可能動詞形とあわせてヨマレンなどの形もよく残って用いられている。カ変動詞・一段動詞においては、デラレン（出られない）、タベラレン（食べられない）のように可能の助動詞を添えた形がよく用いられ、いわゆるデレン（出られない）、タベレン（食べられない）などの可能動詞形はまず聞かれない。また、ヨマレンシェンケノ（読めないんですよ）などで聞かれる「ンシェンケノ」は、ヨマレル（読める）・イカレル（行ける）などの否定形に下接して「～ないんですよ」といったやや丁寧な意を添える否定表現形式である。

【参考文献】

- 国立国語研究所編(1980)『方言談話資料(4)―福井・京都・島根―』<福井の収録・文字化担当 佐藤茂・加藤和夫> 秀英出版
- 国立国語研究所編(1983)『方言談話資料(7)―老年層と若年層の会話―』<福井の収録・文字化担当 佐藤茂・加藤和夫> 秀英出版
- 国立国語研究所編(1987)『方言談話資料(9)(10)―場面設定の対話 その1、その2―』<福井の収録・文字化担当 佐藤茂・加藤和夫> 秀英出版
- 加藤和夫(1992)「福井県方言」、『現代日本語方言大辞典 第1巻』 明治書院
- 方言研究ゼミナール編(1995)『方言資料叢刊 第5巻 日本語方言の否定の表現』
方言研究ゼミナール

付記：今回このような形で筆者の出身地である福井県武生市方言の記述の機会を与えていただいた方言研究ゼミナール幹事会諸氏、および調査票作成者の神部宏泰氏に感謝申し上げます。

(本学教官)

後記

本号は、金沢大学教育学部に三十三年間の長きにわたつて、学生の教育と学部や研究室の運営に携わつて来られた園家榮照先生の定年退官を記念すべく、編集発行された。論文と先生に関する思い出等を述べたエッセイ、先生の年譜、業績目録等より構成されている。

先生はご退官にあつて一切の諸行事に同意されなかつた。世上、記念論文集やパーティ、最終講義等の記念行事を催して無事の定年を祝い、さらなる発展を望むのを常とする。しかし、先生は一個人の身の振り方に関して周囲の多大な人間に迷惑を及ぼすことを恐れて、全てをきつぱりと拒否されたのである。この間、ご退官間近かを知っている卒業生や関係者から何度も問い合わせがあり、そのことも先生のお耳に入れ、私共もご再考を願つたのだが、ようやくお許しをいただいた企画が本号であつた。

先生のお手柄等については所収の随筆からも伺うことができる。これから推しても、先生が旧制から引き継ぐ最後の大学教授のタイプだつたと思われる。大学の大衆化に伴つて教員のサラリーマン化等もやむをえないと思われるが、そういう風潮に抗して先生は毅然たる態度をとられて定年を迎えられたのである。

先生はご退官後、悠々自適の生活を送られると聞いています。ご健康に留意されて、多趣味な充実した生活を送られることを希望すると共に、私共にも今後もよき刺戟を与えられんことをお願いしたい。(森)